

Rotary



世界に希望を生み出そう

CREATE HOPE in the WORLD



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 石川 元信

幹 事 谷田部 修

会報・雑誌委員長 田崎 信孝

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3032号 2024年1月30日(晴れ) 第28回例会 会員数103名

ハイブリッド例会



点 鐘 石川(元)会長

司 会 副SAA 田嶋会員

◇ロータリーソング「それでこそロータリー」

◇本日のランチ 小付 煮物 サーモンピカタマト
ソース添え 香の物 汁 御飯 デザート

ビジター紹介

小林(正)副会長

◇宇都宮市 建設部 LRT整備課 協働広報室
室長 安保 雅仁 様(卓話者)
主事 郡司 佳菜子 様

会長挨拶

石川(元)会長

皆様、こんにちは。こちらに立つというのが辛くなり、胃がきりきりするという感じが続いて参ります。今日は何を話そうかと思っていたところ、お手元の「ロータリー財団の寄付について」に、理事長 千玄室とありました。千玄室は裏千家の大宗匠で、100歳を超え、かくしゃくとし、淡交会というお茶の方ではお祝いをしたりしています。人というのはどうやって歳をとっていくのかと思うのですが、『ロータリーの友』の「友愛の広場」に丸亀RCのロータリアン、横田さんという方の投書で、「人というのは年で歳をとるのではない。その心の持ちようによって歳をとってくる。」と、サミュエル・ウルマンのある詩の一説をとらえながら書いていました。また、「ロータリーの会員」から「ロータリアン」に変わっていくのはどういうことなのかとも書いてあって、非常に感銘を受けました。以前先輩に、「ロータリアン」と「ライオンズ」がどう違うか聞いて、「ライオンズは自分で奉仕をする、ロータリアンは奉仕をする人を作っていくんだ」と言われた記憶があります。私たち一人一人が、新たな奉仕をする

人、やる気がある人を作っていくのがロータリアンだろーと思っっています。投書の中では、70歳を過ぎた会員の方が、「無線技士の免許」を取ったことをにこやかに話しかくしゃくとしていることに、同じテーブルの人が勇気を貰い、元気になった。これも自分ができる奉仕なんだ、ということが書いてあります。奉仕は仏教でいうお布施でもあります。お金のいらぬお布施、無財の布施の中に「和顔愛語」があります。穏やかな顔、穏やかな言葉によって隣の方を明るくしていくということです。「和顔愛語」。お布施、奉仕でもあると思っっていますので、今日は無理をして、笑って話をさせていただいております。挨拶にかえさせていただきます。

◇(R) 米山記念奨学会より表彰

<米山功労者>

マルチプル 辻 裕司会員(8回目)



メジャードナー 宮下 浩会員(40回目)

※累計400万円でクリスタルの盾の贈呈

◇R財団より表彰

<PHF>

小林 弘治会員

関 元明会員

<マルチプルPHF>

金田 剛会員(1回目)

鈴木 明会員(1回目)

手塚 正智会員(1回目)

相馬 克美会員（2回目）
福田 治雄会員（4回目）
入江 武会員（4回目）
石川 元信会員（4回目）
五月女大介会員（4回目）
辻 裕司会員（4回目）

◇ロータリーリーダーシップ研究会（RLI）
パートⅠ・Ⅱ・Ⅲの修了書の授与
伴 誠会員、石川元信会員、小林正明会員、
谷田部修会員、太城敏之会員（パートⅢのみ）



幹事報告

谷田部（修）幹事

◇2月6日（火）はIMの振替休会
◇R財団から「寄付者の皆様へ」のレター、テ
ブルに配布。確定申告用領収書（レターBOX
に配布）の説明記載あり。



委員会報告

◇スマイルボックス委員会 菊地（正）委員長
小林弘治会員

28日に行われた大人の休日ゴルフにおいて、
パートナー、ハンデに恵まれて優勝することがで
きました。また次回、よろしくお願い致します。



卓 話

「ライトラインについて」

宇都宮市 建設部 LRT整備課 協働広報室



室長 安保 雅仁 様

本日は、宇都宮市が目指すまちづくりと、昨年
8月26日に開業しました芳賀宇都宮LRT（愛
称：ライトライン）の事業概要と開業後の状況や
開業に伴う効果についてご説明したいと思います。

－ パワーポイントにて説明 －

ライトラインの開業後、全国から視察が殺到し
ています。宇都宮といえば餃子ですが、約30年
前に市の職員が家計調査で、餃子の消費量が全国
トップだったことに気が付いて町おこしに活用し
たことが発端となっております。他に、ジャズ、
自転車、大谷、ブレックスなどありますが、新た
に、ライトラインが全国から注目されて、シティ

セールスの目玉の一つとして加わったところです。

これは各種ランキング調査ですが、住み良さ、
財政健全度、子育てのしやすさで「暮らしやす
い」「発展力のあるまち」として、全国トップク
ラスの評価をいただいているところです。また、
製造品出荷額等の中核市比較でも上位で、工業都
市としての側面もあります。ライトライン沿線に、
清原や芳賀の工業団地もかかえております。

宇都宮市が目指すまちづくり（SSC・NCC）

SSCはスーパースマートシティのことです。
100年先も発展し続けるまちということで、地域
経済循環社会（経済）、地域共生社会（社会）、脱
炭素社会（環境）の3つの社会によって「夢や希
望がかなうまち」にしていきたいということです。
この土台となるのが、ネットワーク型コンパクト
シティ（NCC）の形成です。中心市街地だけで
なく、各周辺地域の郊外の地域拠点にまちの機能
を集約し、その拠点を利便性の高い公共交通で連
携しようということです。鉄道、バス、ライトラ
インなど広域性を持つ「基幹交通」と、身近な生
活を支える「地域内交通」、デマンド交通等、階
層性を持った「公共交通ネットワーク」を作り、
子どもから高齢者まで誰もが安全で快適に移動で
きるまち、外出によって健康に・ウォークブルな
まち、環境負荷の少ないまち、これが宇都宮の目
指すまちの姿です。公共交通ネットワークを構築
するにあたっては、大きく4つの取組があります。
①基幹公共交通の整備②バス路線の充実③地域内
交通の整備④交通結節機能の強化です。市長がよ
く「魚の骨」に例えています。基軸となる基幹公
共交通としてライトラインが東西に走り、小骨と
いうか、トランジットセンター（乗り換え施設）
に2次交通のバスを走らせ、その間を地域内交通、
デマンド等で埋めましょうということです。

ライトラインの事業概要

LRT（Light Rail Transit）の特徴として、
①専用空間を走行するため、時間に正確。定時
制・速達性がある②騒音や振動が少なく快適③車
両の床が低く平ら、バリアフリーに優れている④
他の交通手段と同じ高さ（道路上）なので、連携
がスムーズ⑤個性的で洗練された車両デザインは
「まちのシンボル」に。があります。

JR宇都宮の東口から芳賀、高根沢工業団地の
終点まで約14.6kmのルートで、ベルモール辺り
までは幹線道路と併用走行区間となっております。
それを過ぎると専用走行区間となり、青陵高
校前からまた幹線道路と併用走行区間となります。
2年後の供用開始予定で、平石停留場の北側に、
アーバンスポーツを楽しめる施設、飲食店、農産

物直売等を加えた公園を作っているところです。

事業概要をまとめますと、着工が2018年5月で開業が2023年8月26日。営業キロ、約14.6km。停留所が19か所。導入車両17編成（車両長29.52km）。車両定員約160人。一日の利用見込みは、最終的には平日16,000人、土日・祝日5,500人ですが、今はその8掛けで計算しています。運転最高速度は40km（軌道法）。運転時間帯は午前4時台から午前0時台で、JR宇都宮駅の新幹線の始発、終電に対応しています。開業当初、ピーク時8分間隔、オフ時12分間隔で運行。整備費ですが、東側に関しましては、事業費は684億円（国補助326、市町等358億円）です。そのうちの宇都宮の約300億円をどう払っていくかですが、市債を発行し20年間かけて償還していきます。トランジットセンターですが、停留場19か所のうち5か所（JR東口、バルモールの前、平石、清原、芳賀工業団地の管理センター前）に設置しています。

ライトラインの事業スチーム

LRTの事業は「公設型上下分離方式」という新しい事業方式を採用しています。平成19年に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、宇都宮市と芳賀町が車両やレール等を整備・保有し、宇都宮ライトレール(株)が事業運営を担います。宇都宮ライトレール(株)の出資団体は宇都宮市と芳賀町で51%、後は、商工会議所、銀行、経済団体、関東自動車等です。ライトラインの車両の特徴ですが、車椅子のスペースが2か所ありバリアフリー性を高めている、フリースペースを設置しベビーカーや大型荷物の持ち込みの需要に対応している、すべての扉にICカードリーダーを設置している等があります。また、トータルデザインということで、LRTデザインコンセプト「雷都（ライト）を未来へ」に基づいて統一感のあるデザインとなっています。「雷都」については、栃木、宇都宮は雷が多く、災害もありますが、雷に伴う雨によって恵みも多く、ありがたい雷様として雷をコンセプトにいただいております。シンボルカラーは「黄

色」で、稲妻や雷を受け豊かに実った稲穂をイメージしています。これは車両だけでなく、停留場やお配りしたパンフレット等にも使われています。このデザイン性が評価されてグッドデザイン賞もいただきました。

ライトラインの開業後の状況

約5か月過ぎて190万人を超え、今週、来週のうちには200万人になりそうです。利用者が多く、停留場の駐車スペースも増設しました。昨年、餃子祭りに合わせて一日乗車券を販売開始し、好評をいただいています。いろいろな取り組みによってサービス向上をしています。

課題もあります。一つは、自動車との接触事故で、5件発生しています。対応としまして、警察、会社、市・町で「緊急対策会議」を開催し、事故防止策を協議しています。市民の皆様への安全安心を留意して営業しているところです。二つ目の課題は電車の遅延です。現金の利用率が多くて時間を要することがあるため、ICカードの利用促進や事前の両替を呼びかけています。

ライトライン導入の効果

「宇都宮市の産業連関表」を用いて試算すると、第1次、第2次効果併せて約900億円の経済効果があるとしています。市の人口はピーク時から比べると約5年で5千人減少しているのですが、LRT沿線を見ると、8%増えています。高層建築物の建築確認申請数の割合も高いです。地価公示価格も上がっています。民間調査で賃貸物件の問い合わせ件数も増えているとのことです。しもつけ新聞によると、首都圏の中で宇都宮が目目され、検索されているとのことです。

駅西側導入検討状況

駅西側に関してですが、今はいろいろな検討がされており、2030年代前半の開業を目指しております。経済効果は約810億円と試算されているところです。

※参考資料としてパンフレット等の配布がありました。